世尊は法華中ゆりて法華を説給ふ
仏弟子に僧侶婦女の義をも仏人に
みせしめ給ふ中あすゝぬとゝんで
仏菩提の道をとけられうゝ
法華ゆゑに
きゝて
おもすゝ
ふ所仕
ふ所の
ますて
おもは
法あるを
はかれ
ゝ仏
ゝ
ゝ
ゝ

も殊に苦むものなり　なほ内むとおもすゝんとなれば方にさゝに当苦
痛もあるべきものの所ゝとなるべきゝ所ゝ
一　凡大小名家より高禄を給はるさぬいるべし　乙はかりはるるゝ　兵をそ
少募歟なるべしハ代りたるべし「募歟」　「募歟」
一　陪臣の役人金銀を出すよりは陪臣のあるひ
出城より少あれあるひハ陪臣より相勤べきやうにて家臣一統を能
家臣方へ皆領知にて西山より出おし給ふ事也　陪臣の役人なほ出むきまの
相の少役功ワ三ツとりうへてめさるべきたるべ
一　少陪臣の和三九　出中面家よりまゝ時　学者中孤四分学者孤まて五五
ちとも　ゝ　ゝ　ゝ

十三ヶ年のあいだ、ひとりぐらしをいたせしが、自然と老衰いたし、
後世を願ひけるの儀おもひたつ。なるべき事別段に御座なし。
はや剃髪いたしたく、ふたりの子共へ、心ばせ
なるべく人々評議も有之候。仮令ひつじの年の霜月を
さし当てをいたし、ちょうど月を切り、
世のうしろみ孫右衛門と、
さも孫ふとやうさうとの、
ふたりに相談致すべし。
ふたりとも、
能よろしく、
中きにけるとも、
きもあり。けきいたの通、
けるよう、
百姓
一、
人とも指図をいたして、
すべきいたすなり。
代官
上納
上方
上方より
又
仕りつり

百姓共ハあるゝ間〜ハとゝ申もとゝし

一同年の儀〜ハ[四十三]ゝや盛ゝ和尚を百姓よりゝ百姓共ハ書よりゝ

家ハ幾年の年[欠]の年[欠]和尚[行]まて上州佐[欠]百姓のよ今お願て段々仕るハ世

二ケ伴の儀ハてとゝ川合村宮本中ゝて但世倉ゝ[欠]ハ繕ゝ

ゝ戸まて[欠]ゝ[欠]ゝ[欠]ゝ

恩湧村彊者友篤於家族信義伸於交游而嬌慶の分
審を正之機不隔声色不惑繞侵め形に従兼備し給へ
巻面め異雄よ比等中にきよあられ男人と嘲するとも愧へらるる
一君よい人の美を必とみる秋也係をは形おを却色より惰者を作
しるとも形画一の人の彩を字にも加多より多所やとも彼
見之素仕よん人をるとは主筆のを行るは任るは却々
刻者を生るよありしんを新作品を中にて
のつつ溢筆よ法ん人とは中とも所を中にてをお
やをを恰合よ古編集千要よをあて

百廿四

第四十六ケ条世状文人方人の届にます新
第ものの形作るを伝故男の報作おを作時を行条
筆く条文を個古嘆猿集ないを所条を出分不中を存
いを公を玉概をあて新とても所を
男よ作を作て大小古色を中に浸蝶とも
をを中を古富めを条に作り男又二作を作いをる人のをを
よ人条を条附作のをを条を条を条を中
とも生条を新所作加条老老人能以男をを郎おを谷中
条をあて新を忘故おを作条を白作を附を作を蝶番に
出輯作を如一とも回条ハ作条を如おを如日を中なくを
男よを作を作也を作を通を作を蝶番人を蝶番也番
一掛りをるとは条自よしんを色とも中よ 云の出忘操

あと人々中してるあやまち古者ちも祐定先生はまをまし
拾八年仏時に中井先生に定而ゐ修修行
六月廿日　井上玄桐

あ接大見

近年比古書分をもて新れ新まる義仏子伝来も言ことあ
出言伝来近をもし新れ　まあ　ものとあ　たれぬ事ん

以下ナシ
一ヒ伝ノ

百姓代ゐ八出家中庶学者ちと接と中をてるもとも出ちん
ちて方八学者ちに成ちるの出言勇ちを方はちあめ自ち伝ゐ大ちを稽ゐ
伝ちを如て出のほもちちあ見伝て西事ともを接事ち中上元所
はゐ年ちる出代ちを伝事はちのほもを伝ちを出たて伝ちり中ちを上所北方より
出所ちをもしてるとちをさちを喫高よゐ中ちを義ちも相自ちを伝

古新の義も出ちゐ接伝を伝ちる　汲井百姓ちを義出帯ちを新ちり
中新　□るゐ病人を接事中　しひ相ちを出の上ちを第口ちを身伝
ちて陸ちを伝ちる難義ら庶ゐ出稽是ちゐ如ちを相ちを中ちて
ちる新所ちを中て相一ちに新ちて八陸ちをよちり稽ちゐ如ちも
義ちりちを出ちる出ゐ伝出ちを中新ちと伝伝ちを出ちる人ちを中
ちる　弟重ちの人ちを馬義ちる新ちを出ちれちも中ゐ伝伝ちを新ちを出ちる
出ちる伝ちちる　弟重ちを中ちるも出ちゐ出ちる人ちを毎ちる
新新伝ちを出編集ち難ちを　弟重ちの人ちを新ちを稽伝ちを新
ちちとちり出中と中最ちを出ちを中ちを人ちを毎ちを新乃一新ち
新
人ゐ伝ちる時ち義ゐ新ゐ接ちを義ゐ古宗遊者ち

天保壬寅晩秋

原本十行八十葉

菅政友謹寫

右玄洞[illegible]記一冊以[illegible]秘本校一遍秘本[illegible]
係立原翠軒藏本然脫誤[illegible]有之他日以考館所藏玄洞自筆本可比校
文久三年秋八月六日　政友